



知っとうでー 海部の宝もの

もり としひろ
森 敏博 (友の会役員)

久しぶりに旧海部町に行って来ました。今は海陽町の一部となっています。国道 55 号線を南下、海部川を渡ったあたりが目的地です。ここの宝ものをいくつか紹介します。

宝ものその1 ヤッコソウ

海部川を渡ってすぐ左側に大きなスーパーがある。その裏山を妙見山みょうけんざんと言ひ、頂上に明現神社みょうけんじんじやがある。この神社の参道脇に可愛くヤッコソウが顔を出している。

4~5 cm位の小さな花で白っぽい全体にピンクがかっている。奴やつこが袖を広げた姿に似ているところからヤッコソウとその名が付いたという。ユニークな姿をしている。

シイの木の根に寄生する一年生の寄生植物であり、世界の北限自生地として天然記念物の県指定を受けている。平均気温 17~20℃が適温とされ、湿度が低く乾燥した状態になる 11 月上旬頃が見頃と説明板にあった。



ヤッコソウ

10 年ほど昔、初めてこのヤッコソウを見てその姿に驚いたものだが、今もしっかりと花芽を出している。絶滅ぜつめつが心配されるだけに、地域の方の見守りがあるとのことと思う。離島の「小島こしま」にも群生地があるとのことだ。

徳島県立博物館のホームページに、小川誠学芸員の詳しい説明がある。

宝ものその2 ツチトリモチ・カンアオイ

海部川をさかのぼり城満寺の下を通り抜け、県道 300 号線を谷あいに向けて走ると、左に見えるこんもりと樹木の茂る所が櫛川くしかわの氏神さん杉尾神社。この裏山斜面にツチトリモチが赤い卵形をした花を咲かせている。ツチトリモチは「ミミズバイの根方に秋になると生えるヤドリギ科の多年草」と説明板にある。表面は赤色をした細かい粒々で覆われており、この部分を花穂かすいとよぶ。花は中に隠れているというが見た目には分からない。雌雄異株であるが、雄株は見つかっていないそうだ。

昔、根茎こんけいから鳥を捕まえる粘々したトリモチねばねばが取れたことからこの名が付いたという。キノコに似てキノコでない完全寄生植物かんぜん きせいしよくぶつ。一見毒々しい赤に驚く。10 月末~11 月頃が見頃である。



ツチトリモチ

絶滅危惧植物として海陽町の天然記念物に指定され、村の人たちの宝物として大事に管理がなされている。

杉尾神社の社殿周辺、落葉の溜まった所にカンアオイがぼつぼつと葉をだしている。

掲示された説明によると、モモイロカンアオイ、ウマノスズクサ科、絶滅危惧種または絶滅危急種、現在のところ旧海部町だけに見られ、木枯しの吹く頃になると葉の付近から柿のヘタ様の渋い褐色の花を付けるとある。今はまだ花芽は見えない。

一般にカンアオイの根茎と根は薬用として、土細辛または杜衡と呼ばれ用いられる。



カンアオイ

宝ものその3 ハッチョウトンボ

櫛川の近くに中山という地区がある。ここに生息するハッチョウトンボは日本産のトンボでは最小。普通に見られる赤トンボをググッと小さくしたようなトンボで体長2cm前後、1円玉に入ってしまう程のものだそう。成熟した雄は鮮やかな朱色をしており、雌は黒っぽい横紋をもち地味である。5～9月頃に見られるという。



ハッチョウトンボ (現地設置された説明用看板)

主として湿地、湿原、休耕田などに生息する。非常に小さいため、飛ぶ力が弱く移動距離が短い。そのため生息環境に左右される。一時現在の生息地に土砂が流れ込み、トンボを見かけなくなったことがあるという。

絶滅危惧の指定を受けている。今は時期でないので見られないが、来年の夏には是非見てみたいものである。

友の会行事報告

祭り見学

—海正八幡神社の秋祭り—

- 日時 10月1日(日)
12:45～17:00(以降自由見学)
- 場所 阿南市橘町
- 担当 幸坂敏行(友の会役員)
磯本宏紀(博物館学芸員)
坂部公章(博物館係長)
- 参加者 9名

秋晴れの昼下がり、長い石段を登った先にある海正八幡神社の境内では、例祭式が粛々と行われていました。巫女舞、宿振り、神輿渡御…。行事が進み次第に日が傾くにつれ、町は徐々に熱気をはらんでいきます。辺りに宵闇が迫る頃、御旅所には次々とだんじりが集い、そして始まる巡行と鉢合わせ。その熱気たるや、あたかも火花が飛び交うよう！自分自身もいつの間にか祭りの高揚感のただ中に入りました。

今回見学したのは祭りのほんの一部に過ぎませんが、そこから強く感じたのは、老若男女を問わず、地域が一体となって祭りをつくりあげる姿、つまりは人々のふるさとに対する思いと住民同士の結びつきの深さでした。(坂部公章:博物館係長)

Vo!c 参加者の声

●幸坂敏行さん

各地の祭り開催日が土・日曜日へと変わってきて

いる中、昔からの10月1日～3日を守り続けている橘海正八幡神社の例祭。子どもから若者、お年寄りの方まで町中の人、いや町出身の人まで含めて祭りに熱中する。橘の祭りといえば、ぶつかり合う「けんかだんじり」というイメージしかなかったが、今回初めて例祭式・宿振りから神輿渡御を見学する機会をいただいた。また、きれいに飾り付けされたばかりの4つの組(西・中・先・東)のだんじりを間近でじっくりと見るのができたのは貴重な体験であった。見学者を歓迎してくださり、事前にいろいろなお話しをしてくださった宮司の織原さん、参加者全員分の蚊取り線香を準備してくださった友の会の森さんご夫妻、参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

たけちみのる
●武知実さん

昔は、祭りといえば太鼓の音が聞こえて気持ちの高ぶりがあったが、最近では知らぬ間に終わっていました。この見学会に参加して、昔にタイムスリップ



若者による宿振り



神輿が出発

したようで、祭りの楽しさや人々の一体感を感じました。参加してよかったです。こんな祭りが今でもあるのかと驚きました。県の無形民俗文化財だそうだが、事前にPRをもっとしたら、広くこの祭りの良さを知られるのではと思いました。

おおひらまさよ
●大平昌代さん

久々に祭りらしい祭りを見させていただきました。子ども・若者が少なくなった今日、近所の祭りでは、女の子が太鼓をたたいたり、隣の地区から兄弟を借りてきたりしても人数が足りずに困っていますが、後継者がいて、町中で応援している姿を見ると、本当にうらやましく思いました。大切にしていってほしいものです。

おおすぎようこ
●大杉洋子さん

50年くらい前、母の里、橘の秋祭りに呼ばれて行きました。伯父が変な格好(奴)をして写真に収まっていたのを思い出し、目の前の若者を懐かしく



御旅所にて



御旅所に集うだんじり

ながめました。御旅所には女だんじりが出番を待っていました。夜にならないと、名物のだんじりのぶつけ合いはないということで、残念ながら帰途につきました。

●阿部萬里子さん

例祭式が厳かに執り行われ、心が清められた感じがしました。だんじりも子どもたちが楽しそうに太鼓をたたいていました。子どもの頃、近所の神社であった神輿の宮だち、チョーサじゃチョーサじゃの掛け声、屋台同士けんかの喧嘩を懐かしく思い出しながら、昔のよき時代に帰ることができました。いつまでもこの祭りが続いてくれることを願って帰路につきました。皆さまお世話になりました。

友の会行事報告

里山探検

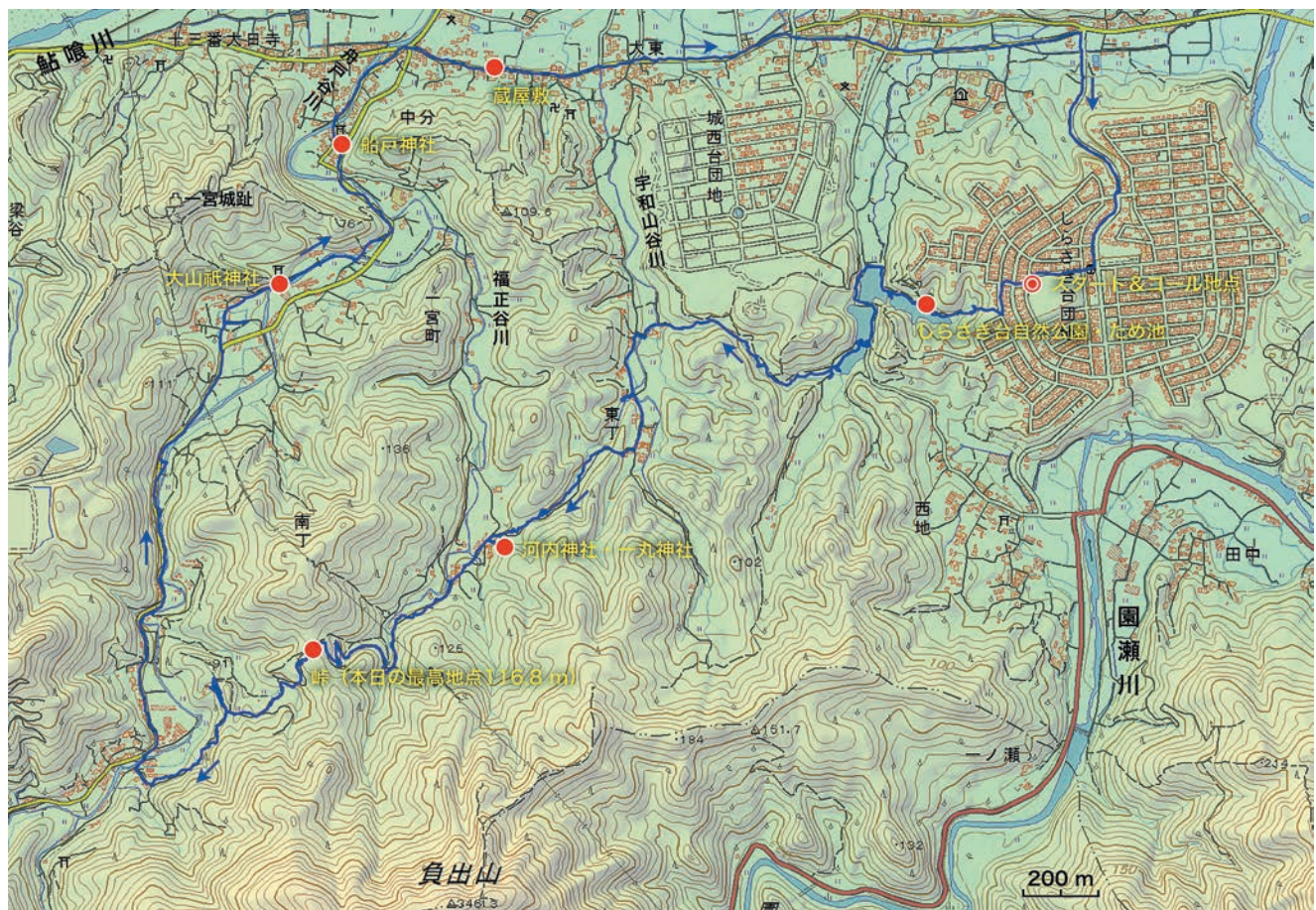
○期 日 11月5日(土) 9:30～16:30

- 場 所 徳島市上八万町・下町・一宮町
- 担 当 さとうよういち いばらぎやすし
佐藤陽一、茨木靖 (博物館学芸員)
- さかべきみあき
坂部公章 (博物館係長)
- 参加者 6名

鮎喰川おいだしやまと負出山に挟まれた里山を歩く

以前にも「園瀬川探検」と称して2000～2004年に11回に分けて博物館の前を流れる園瀬川の河口から源流まで歩き通すという行事をやったことがあり、いろんな発見がありました(アワーミュージアム No. 13～15, 17, 18, 20～24 参照)。今回も園瀬川の中流域に近い徳島市の上八万町と下町、一宮町に跨またがった里山地域を友の会会員の皆さんと歩きました。

流域としては下町のため池群(園瀬川水系)とその隣の鮎喰川水系の宇和山谷川、福正谷川(舟戸谷川支川)、および舟戸谷川(本川、ただし上流では谷又谷川と名前が変わる)の4つの谷を縦横断してきたことになり、変化に富んだコースだったと思います。大まかに言うと北は鮎喰川、南は徳島市と佐



里山探検ルートマップ (GPS ロガーの記録)

国土地理院電子国土 Web 画像にオーバーレイ (<http://maps.gsi.go.jp>)



しらすぎ台自然公園で植物観察

しらすぎ台自然公園に隣接したため池群
奥に見えている山は徳島市と佐那河内村の境にある負出山。

那河内村境の負出山に挟まれた地域となります。普段は地元の人以外訪れることがほとんどない場所で、皆さん初めての方ばかりでした。

9時半に博物館のある文化の森総合公園の駐車場に集合し、車でしらすぎ台グラウンドに移動。そこを10時頃出発して前ページのルートぐるっと約6時間半かけて12.8 kmの行程を歩き通しました。途中、いろいろな植物や、イノシシのぬた場やアカハライモリや川魚（カワムツ）が泳ぐのを観察しました。また、神社や小さな祠ほこらでも昼食や休憩を兼ねて立ち止まりました。しらすぎ台グラウンドに帰り着いたのはすでに日が落ちかけた午後4時半でした。

博物館の近くでもまだよく知られていない里地・里山はたくさんあります。そのような場所に車で行くのは簡単ですが、やはり歩いて巡ることにより様々な発見があります。また機会があればやってみ



ぬた場

城西台団地南側の山道にはイノシシのぬた場が多く見られました。

たいと思います。（佐藤陽一：博物館学芸員）

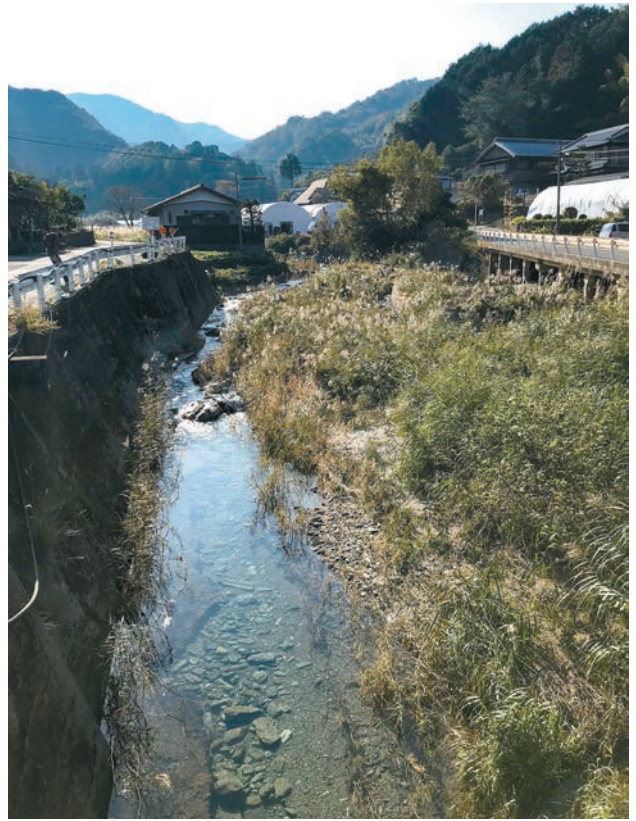
里山探検で見られた植物

暗い森を下り、最初に見つけたのはモチノキ科のタラヨウ。葉に棒切れなどで字を書くと黒く文字が浮かび上がってくるという面白い特徴があります。しばらく皆で試してみました。谷底のため池ではキクモを発見。水中と陸上では葉の形を変える“異形葉性”を有する話をしました。池の堤はツリガネニンジンが盛りで、薄紫の花をたくさんつけていました。長い山歩きのおやつに食べた真っ赤なフユイチゴの実は甘酸っぱく、ヤマノイモの零余子むかごは粘りのある大人の味がしました。今回の行事で、ススキによく似たウンヌケモドキが見られたのは、なかなかの収穫でした。その特徴や生態をお話して、標本も作製しました。この他にもウラジロ、コシダ、ヤマハッカ、コンテリクラマゴケなどなど、予想以上に多くの植物を見ることができました。

（茨木靖：博物館学芸員）



河内神社・一丸神社（名前が2つある）で昼食
風格のある古民家の横の参道を登っていくと小さな社殿があります。



舟戸谷川の上流（ただし、ここでの表示は谷又谷）
コイ科のカワムツが泳いでいるのが見られました。



今回の最高地点（標高 116.8 m） ここでも植物観察



舟戸谷川沿いを降ります



舟戸谷川下流にある船戸神社の天狗の面

Vo!c^e 参加者の声

たけちみのる
●武知実さん

植物の名前に無関心であったが、参加して植物を見る楽しさを再認識しました。これからは自分でもじっくり見たいと思います。ハイキングとしても楽しかったです。

ありいともき
●有井智紀さん

ぼくは、植物や虫に興味があるのでこの行事に参

加しました。一番心に残ったことは、葉のうらに文字がかけるといことです。本当に山で迷った時に役に立ちそうです。探検の終わりの方は心も体も疲れてはいたけれど、とても勉強になったので、学校の理科の授業でもここで知ったことを発表したいです。本当にありがとうございました。

●有井紀文さんのりふみ

「身のまわりの生きものを観察しながら、運動もできるな」と思って参加しました。いろんな観察会に参加しているにもかかわらず、名前も特徴もなかなか覚えられていませんが、歩きながら花や実・魚などを見つけるたびに、周りの先生方が教えてくださったので、大変勉強になりました(やはり食べられるものは覚えやすいようです…)。日頃運動不足の身にはややキツイ行程でしたが、貴重な体験となりました。皆さまに大変お世話になり、ありがとうございました。

●友の会会員

同行していただいた博物館の方には大変お世話になりました。山歩きに不安があり、体力のない私にはコースがハードで、最後はかなりきつかったです。自然公園のため池周辺のみを探索する「初心者向け里山探検」があれば、家族連れや体力に自信のない人でも参加する方が多いのではないかと思います。野生のブルーベリーやキウイ、山ぶどうを見ることができ、人生初のムカゴも食べることができました。美味でした。直に飲んでみたいと思うほどきれいな川の水に感動しきり。ずっと眺めていたい里山の風景に出会えてよかったです。子どもにとっても、今回の自然体験は強く印象に残るものとなりました。

『アワーミュージアム』への 投稿のお願い

アワーミュージアムへの投稿原稿を募集しています。身近なおもしろいネタ、旅行に行って発見したこと、博物館や展覧会等の見学記などなんでも結構ですので、お気軽にお寄せください。

友の会行事報告

津波碑などの見学

- 日時 12月2日(土) 13:30～15:20
- 場所 海部郡海陽町浅川
- 担当 とくのとしはる 徳野壽治 (友の会役員)
なか おけんいち おかもとはる よ 中尾賢一、岡本治代 (博物館学芸員)
さか べきみあき 坂部公章 (博物館係長)
- 参加者 8名

海陽町浅川に点在する、津波に関する石碑や供養塔、石標などを見学しました。県南には、津波被災関連の石碑や慰霊碑などが各所にたてられています。そこには、被害状況や被災時の様子、後世への教訓などが記されており、けいねんれつ か経年劣化で文字の読み取れなくなった碑については、自治体が新たなものをずいじ随時設置しているようです。これらの碑文などからは、当時の人々が、自分たちの子孫へ伝えようとした強い思いがひしひしと伝わってきました。行事の途中で出会った地域の古老からは、浸水時に2階から見た、漁船が隣家を壊しながら流されていく様子など、自らが子どものとき体験した津波のすさまじさを聞き取ることができました。

この行事を通して、南海地震の発生がけねん懸念される昨今、私たちも防災意識を高めて地震への備えを万



「震災後50年南海道津波史碑」と「津波十訓」(浅川出張所)
昭和21年の昭和南海地震では、浅川地区では死者85名、家屋全壊364戸、流出44戸などの被害があった。

全にしておかねばならないと再認識しました。

なお、本年度、浅川のものを含め県内 19 基の地震津波碑が、国の登録記念物となりました。

(坂部公章：博物館係長)

Vol. 61 参加者の声

●もりとしひる 森敏博さん

浅川地区の津波碑を見る行事に参加しました。県内の津波碑の中で、この浅川地区の碑の数は断トツに多いです。それだけこの地区の被害は、その回数、被害の程度において甚大であったことがわかります。チリ津波を知るものにとっては身にしみてわかります。その一つ一つを見て、津波への対応を記録して、いつまでもこの村の存立を願った先人の思いが伝わってくるようでした。よい1日でした。



津波避難タワー



参加者の皆さん



安政の津波碑 (旧碑) (浅川天神)

安政南海地震(1854年12月24日)の地震を記した石碑。前日に起こった安政東海地震のため、住人は避難していた。そこへ午後4時に地震が発生し、9mの津波が押し寄せ、3つの神社と3つの寺以外の人家はすべて流出した。さいわいけが人はいなかった、ことなどが書かれている。



安政の津波碑 (新碑) (浅川天神)

旧碑の風化などにより、碑文が読みにくくなったので、碑と碑文を新たに再建したものの。

アワーミュージアム 第61号

2018年1月31日発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp